

小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発 (令和2年度経過報告)

附属学校改革専門委員会；(代表) 田代高章*, 板垣健**, 菅野亨***, 川口明子*

*教育学部, **教育学部附属小学校, ***教育学研究科

(令和3年3月4日受理)

1. 本研究の位置づけ

本研究は、教育学部の附属学校運営会議の下部組織である附属学校改革専門委員会の所掌する、第三期中期目標中期計画における附属学校改革の三つの課題についての一つ(小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発)に関する研究である。

附属学校改革専門委員会においては、以下の中期目標中期計画のもとに研究を推進している。

具体的には、岩手大学第三期中期目標の【16】「地域創生の観点に立ち、地域の教育諸課題を解決することのできる、地域の初等・中等教育機関教員を養成するための実習校としての機能を強化する」と、その下での中期計画の【32】「地域創生を担う初等中等教育機関の教員養成実習校として機能するため、教育学部及び教職大学院と連携・協力して実習カリキュラムを開発し導入する。これにあたっては、小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発や教職大学院における実習カリキュラムの確立等を行う。」、および、

【17】「地域のモデル校としての附属学校の機能を強化し、先導的・実験的取組を通じた教育・研究を進め、地域の教育課題に応える。」と、その下での中期計画【34】「地域のモデル校として、多様な子どもたちを受け入れ、幼稚園、小学校、中学校という異校種間の接続教育及び一貫教育のあり方や小学校の専科制について調査研究を行う。そのうえで、附属学校の機能を強化するため学級数、入学定員の適正化を図り、教員の適正配置を計画し、実施する。」を実現するための全学的な位置づけのもとでの研究である。

上記の中期目標・中期計画にしたがって、地域

課題の解決にも貢献しうる地域のモデル校としての役割と、地域創生のための附属学校園の機能強化を目指した取り組みを学部と附属校園と共同で進めている。具体的には、①小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発、②小学校の専科制のあり方について、③異校種間の接続教育及び一貫教育のあり方について、の三つの研究テーマに沿って、附属学校改革専門委員会を中心に、具体的な計画の実施に取り組んできた。

本論は、三つのうちの、①小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発について、第三期5年目の経過報告の位置づけを有している。

特に本研究では、令和2年度の年度計画「令和元年度に一部改善を図りつつ導入した小規模校の学級運営に係る教育実習カリキュラムについて、学生や担当教員へのアンケート調査を実施し、そこから教育課程上の位置づけ、受講生数等についての教育的効果を検証し、その結果を踏まえて更なる改善に着手する。」の実現を念頭に研究に取り組んできた。

本論は、その実施状況と、成果と課題をまとめるものである。(文責：田代 高章)

2. 本研究の内容

(1) 研究の背景

本研究では、岩手県の学校現場の特色である、小規模・複式教育に関する学生・院生への効果的な教育実習カリキュラムのあり方についての研究である。

昨年度までの研究成果をもとに、これまで、三つの課題を中心に令和2年度も取り組んできた。

第1が、学部1年生における観察実習における

複式授業の参観についてである。

第2は、学部4年生を主対象として開講される「地域教育実習」における小規模校参観、複式授業の参観と研究協議である。

第3は、学部3年生の主免教育実習中における、附属小の複式学級の授業参観を、他の実習2校(仁王小、緑が丘小)の実習生に授業研究させる交流実習の可能性の検討である。

令和2年度は、新型コロナ禍により、教育実習そのものの実施が危ぶまれるという事態でもあり、本研究の進捗にとっては大きな障壁となった。

その中でも、観察実習、地域教育実習について、形態は変われども、何とか無事に実施できたことは誠に幸いであった言うべきであろう。附属小学校はもとより、ご協力いただいた外部の関係教育委員会や各学校にはあらためて感謝申し上げたい。

そのような特別な状況下での令和2年度における具体的な取り組みは以下の通りである。

(2) 今年度の取り組み状況

1) 観察実習

ア 実施状況

(小主免) 日時：令和2年10月20日(火)又は21日(水)*いずれか1日の午前

場所：附属小学校

参加者数：118名(1年生)

(中主免) 日時：令和2年11月10日(火)

イ 成果

- ・本年度は担任が行う複式授業を参観させたが、参観する学生にとって、指導に慣れている担任の授業の方が教育実習生の授業より複式指導のポイントが分かり易いと感じた。
- ・略案でよいので、参観者に複式の学習指導案を配付したい。貴重な資料にもなる。

2) 地域教育実習

ア 実施状況

- ・日時：令和2年9月23日(水)～24日(木)
*1泊2日

- ・場所：岩手郡葛巻町

五日市小学校、葛巻中学校、葛巻公営塾、山村留学生寄宿舎

- ・参加者数：17名(教育学部4年生16名、教職大学院2年生1名)

イ 成果

- ・2泊3日を1泊2日に短縮して実施したが、山村留学生と交流したり、大学での学修を1日増やして充実させたりして内容を工夫することで目的を果たすことができた。
- ・主免実習の実施校とは異なる小規模校での教育実習体験を通して、小規模校の特性や地域教育への知見を広げることができた。
- ・小規模校の特色ある教育への関心を膨らませると共に、教員の仕事に対する意欲を大きく高めることができた。
- ・事後アンケートを実施して学生達の考えを把握することができた。改善のための資料として活用したい。

ウ アンケートの現時点での回答傾向

学生からの主な声は下記の通り。(回答17名、回収率100%)(※詳細は別紙参照)

- ① 適切な実施時期・・・9月下旬(59%)
- ② 葛巻町での地域教育実習・・・とても満足(100%)
- ③ 複数市町村での実施がよい・・・そう思う(53%)、思わない(47%)
- ④ 葛巻町以外の適地・・・沿岸部の学校(6名→35%)
- ⑤ 適切な日程・・・2泊3日(65%)、1泊2日(29%)
- ⑥ 参加対象学年・・・4年生(53%)、3年生(29%)、3～4年生(18%)

3) 今年度の予定

地域教育実習一次年度の取組内容である「見直しを図ったカリキュラムの確立」に向けての下準備を進めること。

*以下に、地域教育実習の受け入れ学校に対するアンケート結果を、参考までに添付する。

岩手大学教育学部「地域教育実習アンケート」【実習校】

令和2年9月の葛巻町での地域教育実習終了後、11月に五日市小学校と葛巻中学校にアンケートを実施し、両校から得られた回答は下記の通りである。

1 本年度は、新型コロナウイルスへの対応のために日程を2泊3日から1泊2日に短縮し、実習校の細やかなご配慮の中で三密を避ける工夫をしながら実施しました。地域教育実習の日程や内容について、お気付きのことがありましたらお聞かせください。

- ・子どもたちと一緒に給食をとることができなかったなど、申し訳ない面もあったが、学生たちが熱心に実習に臨む姿を見て感心した。本来であれば、もう少し子どもたちと接する時間をとらせたかったが、新型コロナウイルス感染症対策を考えるとベストな実習だったのではないかと考えている。
- ・1泊2日の日程でよい。感染症対策に十分に配慮し、小学校、中学校それぞれで同じ学生が2日間実習することで、生徒との触れ合う時間が確保でき、学生と生徒の良い関係が築かれると思う。
- ・前日の職員会議、次の日の町駅伝と続いて慌ただしかった。もう少し余裕のある日の方がよい。
- ・当日の指導案等の確認を1週間前あたりまでに行えれば、いろいろなアドバイスができるのではないかと考えた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら教育実習(1日開催)を行ったが、教職員の中には、他県や他地区からの学生を受け入れることに抵抗がある者もいた。

2 地域教育実習は、本学の学生にとって小規模校の教育への視野を広げる貴重な機会であり、参加した学生の評価や満足度は大変高くなっています。貴校の児童生徒や先生方にとってどのような成果が得られたとお考えですか。お聞かせください。

- ・年齢の近い学生たちと触れ合うこと、授業していただけることは、子どもたちにとって貴重な体験である。意欲的に授業に取り組んでいただき、学生たちの創意工夫を感じた。本実習を終え、自信をもって授業をしていると感じた。新鮮な気持ちで学生たちの授業を見たり、自分たちに足りないヒントを得たりと、教員にとっても貴重な機会になった。
- ・本校の生徒にとっては、学生が授業をすることで普段の授業とは違う新しい学びができたと思う。お兄さんお姉さん的な存在の学生から学ぶことはたくさんあり、あこがれを抱く生徒もいると思う。
- ・年齢の近い学生であるため、親近感を持てたし、良い刺激を受けた生徒が多かったと思う。授業以外で生徒と触れ合う機会を設定することができなかったことは残念だった。
- ・若く熱意あふれる実習生の授業が生徒の表情を明るくするものだった。
- ・授業を受ける生徒は単元の流れとしての一授業ととらえるので、打ち合わせをもう少し前に行ったり、夏休みの1日を固定して先生方と学生が直接打ち合わせをしたりするなどして、学生のやりたいことではなく教科として単元の中の一授業として授業をする方がよいと思う。

3 本実習は、例年学生の夏季休業期間である9月下旬に実施していますが、実施時期はいつ頃が適切だとお考えですか。お聞かせください。

- ・受け入れる学校としては9月下旬で大丈夫だと思うが、学生たちとの授業の打合せ等を考えると、学生が休みでない時の方がよいと思う。
- ・受け入れ側の学校としては、岩手地区新人大会、葛巻秋祭りが終わった週で9月下旬頃がよいと思う。例年であれば、秋祭りに参加する生徒が多くいるため、秋祭りが終わってからの方がよいと思う。
- ・学生にとって負担の少ない時期がよい。採用試験や副実習等に重ならない頃がよい。

4 実習の日程は、小学校1日、中学校1日、計2日間の内容でしたが、日程が慌ただしく児童生徒や先生方と話す時間が十分にとれない、いきなりの飛込授業は学生の不安が大きい等の課題があることから、次年度は**小中コース別とし、1校で2日間**(1日目は講話、授業参観、授業準備、2日目は授業参観、授業実習)とする案も考えております。ご意見をお聞かせください。

・学生や子どもたちのことを考えると**小中コース別の2日間が望ましい**のではないかと思います。今年度は、この時期は何も行事等がなかったので、2日間でも対応できた。日程的に厳しい学校があるかもしれないが、本校を基準に考えれば可能だと思う。

・**1校で2日間という案もよい**と思う。生徒と触れ合う時間を確保できるとより教育実習に深みが増すと思われる。しかし、新型コロナウイルス感染症対策に配慮すると、**他県や他地区から訪問する学生と接触することは、普段以上に感染リスクを伴うため、学生と生徒が触れ合う機会を増やすことは難しい**と思う。

・ゆとりある日程は大切。**交流できる時間がしっかりととれると良い**。

・慣れるのに時間のかかる生徒たちなので、**2日間だと会話が進んだり、コミュニケーションが取れたりする**と思う。

・1日に学生の授業が2時間、3時間あると、子どもたちの方も**学力定着等の面や知らない人との授業で不安を感じる**のではないかと。

5 本実習をより良いものにするために、**改善点や要望等**、お気づきのことがありましたらお聞かせください。

・準備の関係もあるので、**授業に必要な機器関係等があったらできるだけ早い対応**をお願いしたい。

・地域教育実習は子どもたちにも教師にもいい刺激である。単独の教育実習は関係のある学年が中心になるため、関わる子どもが限定され、実習しているという感じがしない時もある。今回は**多くの学生が来校し、どの子どもとも触れあう機会があつてよかった**と思う。たくさんの**学生たちの授業を見ることはとても新鮮**に感じる。今後**もうこういう実習が続けばよい**。

・授業やその後の研究会の進行・協議内容が**しっかりと組み立てられており、素晴らしい**と感じた。

・地域教育実習を行うにあたり、菅野先生とメールを通して打ち合わせをすることができ、大変感謝している。教育実習期間には、**教職員が日本、岩手の宝である若手教員を育成する**という意識をもって**教育活動を行えるよう管理職として働きかけていきたい**。

(文責：菅野 亨)

3. 成果と課題

(1) 観察実習について

今年度の観察実習について、1年生のモデルとなり得るように、附属小学校の教員による示範授業を観察する形を取ったが、主免実習生の授業観察よりは、1年生にとっては、学習効果が大きかった点が成果である。

一方で、従来のように、1年生に2年後の自分たちの姿を思い描きながら、当事者意識をもって先輩の実習授業を観察することで得られる成果もある。また、今年度は、新型コロナ禍もあり、示範授業の観察だけならば3年生の教育実習期間中に観察実習を行う必要は無いことから、主免実習とは別日程での実施となった。今後、観察実習の意義をどのように考える必要があるのかの検討も必要になってくる。

(2) 地域教育実習について

概ね、参加学生にとっても、受け入れ先の実習校、教育委員会にとっても、小規模・複式実習としての地域教育実習は、地域の現実を知るためにも、また、複式授業のあり方について実際に取り組み、検討することで得られた成果は大きいことがアンケート結果からも伺える。

距離や負担からは葛巻地域への訪問は満足度が高く、今年度は1泊2日であったが、内容が盛りだくさんであり、従来の2泊3日が希望とのアンケート結果も踏まえ、今年度の内容を踏襲して来年度の実施について企画することになる。

(3) 主免実習における交流実習

新型コロナ禍で、今年度は無理との結論に至った。来年度も継続的に検討していく。

(文責：田代 高章)